

藤野健司

## 彼方からの光

かなしいことがあると  
夜空を見上げる  
空一面の星

何年 何十年 何万年 かけて  
光が 目に 飛び込む  
それは たまたまなのか いや

生きているから その光を 受けとることができる  
その限りのない偶然に  
茫然とする